

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



『博物館だより』最終号です。 長い間、ありがとうございました。

2013年も、スタートしてから早いものでもう3か月以上が過ぎ、もう4月。“新しいスタート”です。新しい学校、新しい学年、新しい職場、新しい環境…。すべてにおいて、様々な門出があり、様々な変化があります。

開館以来16年という長い間、お届けして参りました『博物館だより』は本号をもって刊行休止とさせていただきます。

非常に残念ではありますが、今後も、『館だより』という形ではありませんが、博物館の情報や活動を、引き続き情報発信して参りますので、今後とも変わらぬご指導をお願い申し上げます。

記録の保存と電子媒体の不安

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一夫



平成9年開館以来、年4回発行して参りました紙媒体であります『博物館だより』は諸般の事情で本号(64号)をもち終えることとなりました。関係先の皆様には、永らくご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

最終刊にあたり、館のコンセプトや広報・記録保存のあり方について若干述べておきたいと思います。

平成元年から3か年間「ふるさと創生事業」として、武田の隠し金山といった幻や伝承でない本物の歴史を解明し、その成果を生涯学習や地域活性化に活用する目的で、湯之奥(中山)金山の総合学術調査が実施されました。その結果、8世紀中葉から陸奥国などで始まった砂金採掘とは異なる、15世紀後半における初源的な山金山(金鉱石から産金)遺跡であるということが明らかとなり、かつ遺跡の現場が立派に残されていたことから、国指定史跡「甲斐金山遺跡」(黒川金山・中山金山)として、黒川金山(山梨県甲州市)と共に、世に出ることとなり、現在に至ります。

この湯之奥・中山金山遺跡ガイダンス館として、また金山史・金山遺跡研究の拠点施設として平成9年に開館、以来、町の玄関口、敷居を設けない博物館を標榜し、全国から有料入館者30万人目のお客様をお迎えする段階に至っております。度々繰り返し申し上げてきましたが、この人数はイベントなどの参加者は含まれていません。あくまで受付カウンターでチケットをご購入いただいたお客様の実数のみのカウントであります。

さて、博物館法で定められた登録博物館であります当館の役割は、金山遺跡資史料の収集・

保存・整理・調査研究・展示公開(活用)などの役務がありますが、金山史・金山遺跡にテーマが絞られた日本唯一の歴史博物館という位置づけにあり、ガイダンスをしております。

つまり日常の館活動や各種イベントの全てが、広い年代層を包み込みながら生涯学習という中での教育活動を展開しています。

こうした経緯をふまえ県下・県外小中高の学校利用、地元の山梨県立峡南高校とのインターンシップ研修の受け入れや、大学の学芸員資格取得の実習生受け入れ、イベントとしても県内外の金銀山遺跡の臨地研究(遺跡見学会)、公開講座(24年度は、金山遺跡研究フォーラムに衣替え開催)など、町内はじめ県内外の歴女、歴史ファンの皆様と共に歴史を共有、歴史を楽しんで頂けるよう、展示構成も学芸員の創意工夫で常に新鮮さを維持してきました。

さらに平成21年、22年には茅小屋・内山両金山の本格的な測量調査も行われ、その調査結果を反映すべく、常設展示の調査記録映像やジオラマ映像、タッチパネルモニター、壁面パネル解説など、平成24年4月から大幅リニューアルでお客様にお楽しみいただいております。

多彩なプログラムも全て教育をベースに取り組んでいます。平成12年から年5回~6回のペー



灰吹き実験学習の様子



砂金掘り大会



子ども金山探険隊



親子映画観賞

スで開催している「親子映画観賞会」。

これも、家でぼつんと一人でTVを観ているのと、博物館シアター室の大型スクリーンで、友達や他の家族の皆さんと共に観る効果は全然違うと思います。プログラムをきっかけに地元の方にも親んでもらい、また、多くの方に気軽に足を運んでいただけるよう、博物館が出来る生涯教育学習の場を提供しています。

「こども金山探険隊」も親子を基本に参加、「東西中高交流砂金掘り大会」では、東西私学の雄であります灘、開成を軸に、これまで海城学園、大妻女子、立教新座、報徳学園、駿台甲府、山梨学院大附属、地元から峡南高校などが、教育の一環として参加、金山遺跡での臨地研究や館内における学習、灰吹き実験など含め、各校とも自校の教育ニーズに合わせながらの参加を9年続けています。

この東西交流大会は、今年、第10回大会からは別称「砂金甲子園」を掲げた大会にしたい思いが強くあります。正直、実現すれば大万歳、

教育旅行の聖地にしたい思いです。

博物館へ人が来れば、当然、地域活性化（観光）の拠点としての役割も担い、地域への経済効果も果たしています。開館以来「生涯学習の拠点、地域活性化の拠点（観光拠点）」を標榜しての館活動に心がけてきました。

その中で『博物館だより』は、館と広域的な関係者との絆を深める、共有できるツールとしての役割を果たしてきましたが、この手段を改めて考えなければならない時を迎えてしまいました。電子媒体はシステムが変われば再生不能になります。かつてワープロ全盛時代に残した記録（フロッピーディスク）は、もはや簡単には再生できない状態にありますように、便利さの影に潜む不安は拭いきれません。

今後『館だより』は無くなりますが、形は変わっても、博物館情報は発信し続けて参りたいと思います。博物館への変わらぬご指導を切にお願いし、終刊号のご挨拶と致します。

活動報告

「金山遺跡・砂金研究フォーラム」開催

1月26日(土)

- | | |
|--|--------------|
| 1. 「文献から見る山金・芝金・川金」 | 広瀬義朗 (神奈川県) |
| 2. 「鉱山道具からみた産金技術と時代」 | 谷口一夫 (博物館館長) |
| 3. 「岩手県南・宮城県北地域の産金遺跡」 | 鈴木卓也 (宮城県) |
| 4. 「庄内黄金山の所在をめぐって～山形県立谷沢川と
その周辺における砂金採取調査を手がかりに～」 | 佐藤卓生 (山形) |
| 5. 「地元 (群馬県藤岡市) に伝わる産金史」 | 春山 崇 (群馬) |
| 6. 「ペルーの現役鉱山&世界遺産マチュピチュ視察報告」 | 博物館学芸員 |
| 7. 「学校教育と砂金」 | 野村敏郎 (兵庫) |
| 8. 「韓国の砂金採掘情報」 | 天野直人 (静岡) |
| 9. 「歴史的金山跡に残るズリからの金鉱石採取」 | 大森直之 (東京都) |
| 10. 「カリフォルニアゴールドラッシュの地を訪ねて」 | 林 謙治 (神奈川県) |



1月26日(土)、「金山遺跡・砂金研究フォーラム」が、上記プログラムで開催されました。

フォーラムの主旨は、これまで重ねられてきた金山研究は、一般的にどれくらい定着しているのだろうかということ。金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんが、積み重ねてきた経験や体験、さらに、今まで感じていた疑問点などをテーマに発表していただきました。

また、今回の事業は、公開講座の代替事業として、外部協力団体の「博物館応援団 Au 会」の皆さんが企画してくださったものを、博物館が共催で開催実現したもので、普通の講演会とはひと味違い、堅苦しくなく、誰でも気軽に参加できて、疑問があったら気軽に質問できるような発表会というものをイメージして開催いたしました。

今回10人の方々に発表いただきましたが、



それぞれの発表時間は15分程でそこに5分の質疑応答時間を設けて、簡単なディスカッションもできるような構成にしました。最初の方で発表された皆さんは多少緊張もされていたようですが、それぞれの得意分野をお話される中で、次第にこなれた発表となっていき、フォーラム後半では、発表者が映し出された砂金や砂金掘りなどの映像に感嘆の声や、また笑いも絶えず、雰囲気の良い空間が出来上がりました。

公開講座はなくなってしまったのですか、という問い合わせも非常に多かったのですが、そういった方々にも喜んでいただける企画となり、主催した応援団の皆さんは、事業終了後、成功を喜びながらも、改善点などを指摘し合い、次回開催に向けて意気込みや抱負を述べあっていました。

第2回シルバーアクセサリー教室

2月9日(土)

地元・身延町にある山梨県立峡南高校との共催事業で3年目に突入した共催事業です。このイベントでは、普段の授業の中で彫銀などの金属加工について学んでいる学生達が、立場を変えて、教わる側ではなく教える側になって指導することも特徴です。

平成24年度では2回目の人気体験イベントですが、今回も定員を超える皆様にお申し込みいただき、講師である峡南高校の学生たちと参加者との間に、和気あいあいとした空間が出来上がり、良い体験教室となりました。過去、参加された方にも大変喜ばれていますが、今回のアンケートにも「教えてくれるお兄さんたちが優しく嬉しかったです」、「丁寧に教えてください



りありがとうございました」、「峡南高校のイメージアップになると思います」、「お兄さんや先生のおかげで上手く出来ました。ありがとうございました」という、嬉しい言葉が並び、まさに、学生の皆さんにとっては、直に参加者の喜びの声を聞くことが出来、人に喜んでもらうためにはどうしたら良いのかということ、教室を通して、生徒たち自身が感じる事が出来たのではないかと思います。

何度か参加し要領を分かっている人は、さらにグレードアップを目指して、より高度な作品づくりに没頭します。とにかくモノづくりが好きな人にとっては、夢中になれる貴重な体験です。峡南高校でも年間通じて様々なところでイベントを開催していますが、「銀地金を溶かして、圧延して、型を仕上げる」という流れの体験が出来るのは、実は、金山博物館とのこの共催事業だけで、引率の五十嵐智則先生は、他の先生方と打ち合わせしながら、毎回何か新しい切り口を模索しながら臨んでくださっています。次年度も、12月と2月に1回ずつ開催していきたいというお互いの意向ですので、ご興味のある方は是非、今から予定を考えておいてくださいね。

親子映画観賞会開催

親子で、友達同士で、気軽に映画を楽しんでもらう機会として、開催してきました「親子映画観賞会」。今年度は全部で6回。先日の3月23日の上映で、通算回数74回を数えました。「地元のイベントでこういう映画会があるといいです。」、「小さい子どもがいると、普通の映画館に行くことは躊躇してしまうけど、こちらの映画会だと気軽に来ることが出来るので嬉しいです」という小さいお子様をお持ちのお母さん方ならではのご感想も多く寄せていただいています。25年度も年間全6回で予定しております。親子で、みんなで楽しめる、そして感動するような作品も選定しながら、開催していきたいと思いますので、是非おでかけください。

平成24年度 親子映画観賞会上映履歴

- | | | |
|------|----------------|--|
| 第69回 | 平成24年 6月30日(土) | 「借りぐらしのアリエッティ」 |
| 第70回 | 平成24年 8月25日(土) | 「ROOKIES-卒業-」 |
| 第71回 | 平成24年10月20日(土) | 「ジェラシックパーク」 |
| 第72回 | 平成24年12月 8日(土) | 「トイストーリー」 |
| 第73回 | 平成25年 1月19日(土) | 「それいけ!アンパンマン いのちの星のドーリイ」
「ドラゴンボール 摩訶不思議大冒険」 |
| 第74回 | 平成25年 3月23日(土) | 「ONE PIECE エピソードオブアラバスタ 砂漠の王女と海賊たち」 |

今年度も県内外小中学校でこれだけの利用がありました

博物館へは、観光客だけではなく地域の文化財に関する勉強会や、学校の課外授業の利用も多くあります。

学校の利用は5月～6月の県内巡りシーズン、そして10月～11月の遠足シーズンのこの2つの時期に小中学生で賑わいを見せます。

平成24年度も、地元町内の中富中学校を皮切りに多くの学校の児童・生徒の皆さんに訪れていただきました。



興味深そうに甲州金を眺めたり、質問したり…

普通でも盛り上がる砂金採り体験ですが、学校利用においては、とりわけ賑やかで、楽しんでくれた子ども達が、また今度は家族を連れてやって来てくれるという良いサイクルが出来上がります。

また、県外の学校では、夏休みを利用して、自由研究のテーマ探しに来館した学校もありました。25年度もより多くの子ども達に訪れていただきたいと思います。

平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)の利用学校
中富中学校、松里小学校、石和西小学校、下部小学校、里垣小学校、湯田小学校、国母小学校、大河内小学校、身延小学校、下山小学校、玉穂中学校、玉幡中学校、松里中学校、田富中学校、一宮中学校、春日居中学校、鯉沢中学校、押原中学校、櫛形中学校、富士根北中学校、浅川中学校、敷島中学校、若草中学校、文教大学附属中学校、久那土中学校、湘南台中学校(順不同)

館からお知らせ

企画展「戦国金山を支えた鉱山白」平成25年5月30日(木)～6月25日(火)

平成25年1月12日(土曜日)から11月10日(日曜日)までの303日間、「第28回国民文化祭・やまなし2013」(愛称「富士の国やまなし国文祭」)が開催されています。

国民文化祭とは、各地で一般的に行われている各種の文化活動を全国的規模で発表・競演・交流する場を提供することで、国民の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした国内最大級の文化イベントで、今年は山梨県が舞台となっています。

当館では、その記念事業として、上記企画展を多目的ホールにて開催いたします。

近年、日本各地の鉱山から発見されている鉱山白の情報を出来る限り紹介しつつ、湯之奥金山の白を中心に、改めて鉱山白を検証する「戦国金山を支えた鉱山白」展、楽しみにしててください。



甲州金コーナーの展示替えをしています



現在、甲州金コーナーの箇所を展示替えしています。奥山コレクションのケース内隣に、当館の甲州金史料を移動させ、甲州金を一度に全体を見ていただけるように変更。またこれまで甲州金があったスペースには、各地の砂金史料を展示しています。これから少しずつ完成させていきますが、完成の暁にはご来館の際、是非ご覧になってみてください。

なお、現在展示している砂金史料は、大森直之氏、野村敏郎氏、天野直人氏、齋藤勝幸氏、広瀬義朗氏、新町正氏、丸岡正明氏、高岡伸五氏、(順不同)の皆様よりご提供いただいております。皆様のご厚意に深謝申し上げます。

平成25年度博物館 開館カレンダー

5月から9月までの開館時間：午前9時～午後6時迄（受付は午後5時30分迄）

休館日：毎週水曜日

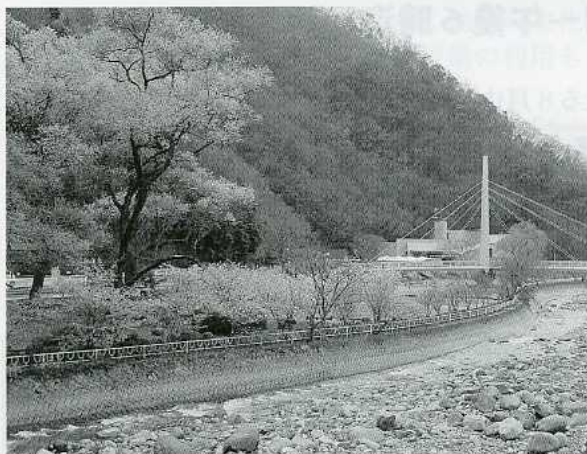
（グレーゾーンになっている日が休館日です。夏休みにあたる8月中は無休開館とさせていただきます。）

4 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	5 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	6 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	7 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
8 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	9 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	10 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
12 2013 H25 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2014 H26 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2 2014 H26 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	3 2014 H26 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

博物館日誌 (平成25年1月～平成25年3月)

- 1月2日(水) 新年初日開館（臨時開館）、お正月特番「開運トラベラー」O.A.
 - 9日(水) 休館日
 - 16日(水) 休館日
 - 19日(土) 親子映画観賞会「アンパンマン、ドラゴンボール」
 - 22日(火) FM富士コメントPR出演
 - 23日(水) 休館日
 - 26日(土) 金山遺跡・研究フォーラム
 - 27日(日) 山日新聞掲載
 - 28日(月) 古文書教室
 - 30日(水) 休館日
 - 31日(木) 身延山節分会
- 2月
- 3日(日) 休館日
 - 6日(水) 休館日
 - 9日(土) 第2回シルバークセサリー体験教室
 - 12日(火) 中部横断道協議会
 - 13日(水) 休館日
 - 14日(木) ジオラマ展示室清掃
 - 18日(月) 古文書教室
 - 19日(火) フジテレビ「スーパーニュース」撮影
 - 20日(水) 休館日・館内メンテナンス
 - 21日(木) 於新清水インナーチェンジ 観光キャンペーン
 - 22日(金) 泉麻人氏、来館ふり旅取材
 - 25日(月) 下山小3年 町内学習
 - 27日(水) 休館日
 - 28日(木) 『館だより63号』発行
- 3月
- 1日(金) 砂金資料寄贈
 - 6日(水) 休館日
 - 8日(金) 関東電気保安協会 点検
 - 11日(月) 古文書教室
 - 13日(水) 休館日・館内メンテナンス
 - 15日(金) 「コレコレ」取材
 - 16日(土) 山梨の遺跡展発表会（考古博物館にて館長・ヘリポート工事（～24日）まで）
 - 19日(火) 静岡駅観光キャンペーン
 - 20日(水) 春分の日、祝日開館
 - 21日(木) 振替休館 館内メンテナンス
 - 22日(金) メンテナンス工事終了
 - 23日(土) 親子映画観賞会「ワンピースエピソードオブアラバスタ」
 - 24日(日) ヘリポート工事終了
 - 25日(月) メンテナンス工事（～28日）まで
 - 26日(火) 山梨放送テレビ番組打ち合わせ
 - 27日(水) 休館日、社会教育委員会、館内メンテナンス
 - 28日(木) 平成24年度博物館運営委員会
 - 31日(日) 平成24年度最終開館日
- 『館だより64号』発行

編集後記



2013年は桜の開花が遅いのでは、と予想されていたのに、3月上旬辺りから急に暖くなり、たちまち開花。ニュースでも報道されているように、各地の桜イベントを前倒ししなければならぬくらいに全国的に早まってきましたね。巡る季節は同じでも、出来事はその年事に違うものです。

ちょうどこの原稿を書いている今リバーサイドの河津桜が写真のように満開ですが、桜と言えばこの季節は出会いと別れの季節でもありますね。

さて、平成9年4月の開館から、6月、9月、12月、3月と、年間4回発行して参りました。扉記事にも書いてありますように、諸事情のため今号をもって『館だより』としての発行は終了となります。16年間で通算64号。永きに亘ってご愛読いただいた皆様、ありがとうございました。

博物館での活動や研究など、多くの皆様に知っていただけるよう、周知や宣伝を含めて内容も綴って参りました。編集を振り返ってみると同じようなことを書いているな、と思う部分もあるし、こんなことも書いていたか、と今更ながらの発見もあつたりします。

基本的には8ページだったのですが、初期は6ページ、特集号では10ページだったりして、



編集に際しては結構毎回悩んだものです。

そう言えば、博物館が開館当初「金山資料館」だったことを覚えている方がどれ程おられるでしょうか。名称変更に伴い「館だより」も13号からは、『資料館だより』が『博物館だより』に変わっているんですよ。

63号送付時に休刊のお知らせを同封させていただきましたが、それを受けて継続希望の嬉しいお返事も多く寄せていただきました。今後、さらなるインターネットホームページ活用はもちろんなのですが、全国の皆様とのつながりを持つプラスアルファの情報発信はどのような形がベストなのか、情報やニュースをどのようにお届けしていけるのか、皆さんに忘れられない博物館で在り続けられるかetc. …。

いずれにしても要望や励ましの声に背中を押されて、日々の業務もイベントも頑張って、多くの皆様に喜んでいただけるものを作り上げようと、スタッフ一同改めて気を引き締める次第です。

今後『館だより』という形ではありませんが、博物館情報をお届けさせていただきたいと思いますので、またそこでお会いしましょう。そして博物館への変わらぬご指導をいただきたく、ここでは『博物館だより』最後の編集後記とさせていただきます。ありがとうございました。

博物館だより 第64号(最終号) 平成25年3月31日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html 博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp